

日常生活のなかの磁石

磁石を用いたものは、日常生活のなかでもたくさんあります。しかし、それらの磁石もわずかに離れただけで磁力が弱まる性質を持っています。磁石＝危険なものではないので、ほんの少し気をつけるだけでトラブルを回避でき安心して生活を送ることが出来ます。身のまわりの磁石を用いた製品を以下のタイプに分けてみました。

- 使用してはいけないもの (通常の使用で影響のあるもの)
- バルブ留置位置を接触させてはいけないもの (通常の使用では影響がないが、故意に接触させると影響のあるもの)
- 磁力小 (バルブ部位に接触しても影響のないもの)

具体的な例を示すと以下のものとなります。

使用してはいけないもの	バルブ留置部位を接触させてはいけないもの	磁力小 (バルブ留置部位に接触しても影響なし)
磁気枕 磁気ネックレス 磁気プレスレット 磁気治療器	冷蔵庫、電子レンジのドア ヘッドホーン イヤホーン 携帯ラジオ、テレビ、ステレオ、携帯電話のスピーカー 磁気腹巻 磁気サポーター	電子レンジ 電気毛布電気こたつ 電気掃除機 電気洗濯機 ヘアドライヤー ワープロ・パソコン ファクシミリ・コピー機

また、場所についても同じことがいえます。

<バルブに影響のある場所>

- ・MRI検査室
※検査を受ける前に担当の方にお申し出下さい。
- ・屋内外に設置された大型スピーカーの近く
- ・科学技術館など磁石を利用した施設

<バルブに影響のない場所>

- ・医用マッサージ
 - ・電車などのごみの中 (携帯電話の使用など)
 - ・高圧線の近く
 - ・IH調理器具
 - ・日常生活の中の磁石
 - ・セキュリティチェック (空港や盗難防止など)
- ※ただし、立ち止まらないこと。

ご不明な点につきましてはお問い合わせください。

お問合せ

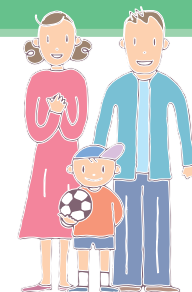


シャント手術を受けられた方へ



様

水頭症の治療にシャント手術を実施した患者様へ、 安心して日常生活をおくれるよう注意点をお知らせします。



シャント手術について

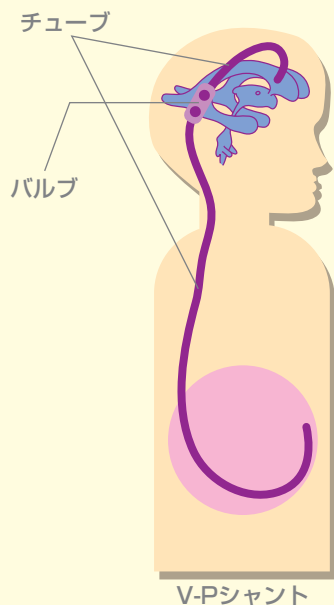
人は誰でも脳の中に脳室と呼ばれる空洞を持っています。その中で脳脊髄液という水がいつも作られ、そこから脳の外側へと流れながら、遂には血管内に吸収されているのです。

もしも何かの理由で、この水の流れが悪くなると、水が溜まり過ぎて脳室が大きくなったり圧が高まる結果、脳が圧迫されて色々な症状が出てしまいます。これが水頭症と呼ばれている病気です。

水頭症の代表的な治療法にシャント手術（バイパス手術）があります。これは水が溜まり過ぎて大きくなった脳室と、お腹（又は胸）の中を細いシリコンチューブでつなぎ、脳室に溜まり過ぎた水をお腹に流し出す方法です。チューブにはバルブ（弁）という装置がはめ込まれていますが、このバルブには、脳室の水が一定の圧以上になって初めて開き、水が流れ出るようになっています。

バルブには、脳室から水が流れ出る圧が、あらかじめ一つだけに限定されている装置と、身体の外から専用の磁石を用いて、バルブを開く圧が、色々変更出来る装置を持ったもの（圧可変式バルブ）と2種類があります。

シャント術を実施することで、水頭症が治療され、症状をなくすることが出来ます。また症状が落ち着けば、特別に安静にしておく必要はありませんし、運動制限も特別激しいもの以外不要です。



注意すること① シャントトラブルの症状

シャントチューブに何等かのトラブルが生じると、治療前の水頭症状態に逆戻りして、頭の圧が高い時の様々な症状が再現しますので注意して下さい。場合によってはチューブの入れ替え手術が必要な事もあります。その場合、普通と違う重い症状であれば、シャントトラブルではないかと誰もが疑います。しかし、もしそれがあきつかりの軽い症状であつたら、原因がシャント由来なのか、別の病気のためなのかわかりにくい事があります。このような判断のつきかねる時は、躊躇なく担当医にご相談下さい。下記の様な症状では（殊に幼児期迄では）速やかに担当医にご連絡下さい。

例：子供の頭痛、些細な事にも興奮して不機嫌な場合（風邪でもないのに風邪様症状）
異常に眠気が続くとき、落ち着きのない精神状態、大泉門が開いていればその異状（緊張や膨隆）

注意すること② シャントチューブに直接関わる異状

無理に身体をひねる激しい運動をしたり、転んで頭をぶつかけたりした場合は、皮膚のすぐ下を通過しているシャントチューブやバルブが切れたり、壊れたりする事が稀におこります。又、シャントチューブの通っている皮膚部分が、痒くなったり赤くなったりする事もありますのでご注意ください。薄い皮膚ならそれを介してシャントチューブに触れたり、盛り上がった皮膚でチューブがわかります。もしチューブが途中で途絶えたり、極端に屈曲しているようなら、水の流れが不十分の場合があります。少しでも気になった場合は、担当医師にご相談下さい。

注意すること③ 磁石を用いた可変式バルブを利用した場合

可変式バルブは、磁石でバルブ圧の変更が可能になっています。従って症状に応じて圧を変え、水の流れ具合をよく調整できますので、水頭症治療に好んで使われるようになりました。ただし、磁石でバルブ圧を調整しますので、身の周りにある強い磁石でも、このバルブ圧が影響を受けやすい可能性が残ります。時にせっかく調整されていた最適のバルブ圧が、いつの間にか別の磁石で変わってしまう事があります。この場合バルブ自体が壊れたりとはしません、正しい設定圧に再調整する必要があります。かかる場合を少しでも避ける為、次ページにあげた注意事項にご留意下さい。